



「森林（やま）の会」は、豊かな森林づくりを目指す市民組織です。1987年の結成以来、これまでに約19,000人の会員が山と対話をしてきました。説明にたっぷり時間を取った森林の観察会を年間8回ほど開いています。新たな知識を深められ、会員から「これに勝る喜びはない」と言葉が出るほどの感動的な観察会になっています。そして2000年から、枯れかけた木の根元に炭を撒き土壌を甦らせる活動をしています。代表を務める宮下正次さんに「生命炭」（燃料炭ではない）を活用した森林の再生について語っていただきました。

1. 針葉樹一色の山にブナを“放流”

20年前、上州武尊山のブナ林観察会で、拾ったブナの実を美味しく食べました。「残った種を庭に撒けば芽が出ますよ」。春を迎えて人気のブナが発芽しました。「庭にそのまま置いてください。大きくなりますよ」「庭はそんなに広くないんです」。「山に帰してやろう。サケを放流するように」。こうしてブナの放流（植樹）は県内の各地で行われました。

2. 甦った敷島公園の松

敷島公園の松は農薬散布を繰り返してきましたが、松は毎年枯れて半分ほどになってしまいました。樹木医に診てもらおうと乾燥で枯れると診断され、ポンプでたっぷり水をかけましたが、枯れは一向に止まりませんでした。森林の会は萩原弥惣治前橋市長（当時）に炭による樹勢回復を提案しました。2000年、418名によるボランティアで1.5ヘクタールに3tの炭を撒

く“炭まつり”を行いました。その中に90%も枯れが進んだ松や、桜の咲く頃には枯れてしまうと思われる松が数本ありました。春を乗り越え、猛暑の夏を越え、台風シーズンに入り、二年目に奇跡がおきました。萩原市長が駆けつけ「えらいことが起こりました。松が枯れなくなりました」と。夏でも下草が無かった松林が、今では冬でもグリーンカーペットのようです。

3. 甦った佐渡のナラ

雪国地帯ではナラだけでなく、広葉樹枯れが起きています。農薬を撒いたりしてきましたが、ナラ枯れを止めることはできませんでした。広葉樹を失ったら森は残りません。

佐渡は激しいナラ枯れが起きています。佐渡市に炭撒きを提案しました。カシノナガキクイムシが入って弱り、梢枯れが広がり、衰退率70%というコナラが数本ありました。炭を撒いて8か月後、虫穴から樹液が流れ出して、カシ

ナガはどこにも見えなくなりました。ナラが助かった報告に半信半疑で佐渡入りした菌類学者の小川真博士は、根の先に菌根を見つけました、5カ所のうち4カ所にありました。「間違いありません。成功です。ナラを助けたのは日本で初めての出来事です。林野庁に報告します」。3年目には枯れそうになったナラにドングリがドッサリなりました。「熊さん、ドングリがなりましたよ」と報告したら高野宏一郎佐渡市長は「宮下さん、佐渡に熊はおりません」…。佐渡市は2012年にヘリによる炭散布を行います。

4. なぜ木は枯れるのか？

木を弱らせ、枯らしていく原因はどこにあるのか。多雪地帯の土壤環境は植物が生きられない環境にまで追い込まれています。雪の中には多くの大気汚染物質が取り込まれます。積もり積もった雪の中の汚染物質は、超強酸性の状態で土壤表面を覆います。しだいに地中に浸み込んだ酸性物質は、土壤の中のミネラルを奪い、ゆっくりと土壤を強酸性に変えていきます。すでに微生物の生きられない世界になってきます。強酸性の土壤からはアルミニウムなどの有害金属が流れ出し、細根を衰弱させ樹液の流動を次第に狭めていきます。

佐渡では電気の全てを火力発電に頼っていますが、この排煙と大陸からの影響も加わって大気が汚染されます。世界と我が国のナラなどの広葉樹枯れは、針葉樹枯れから連続的に続くもので、これは地球規模で化石燃料を燃やした結果発生した大気汚染物質による酸性雨が原因と考えられます。松枯れに続く広葉樹枯れ。広葉樹が枯れた後には森は残りません。

5. スギ一色の山から水が消える

21世紀は水の世紀といわれるほど、水不足が心配される世紀です。

戦後、スギ・ヒノキ・カラマツなどの植林が大々的に進められてきました。針葉樹の落葉は脂分が多く、降った雨は表面を流れてしまい土壤の保水力が落ちます。スギやヒノキといった針葉樹は保水力が弱い上に、冬も葉を落とさないうで水を吸い上げています。その結果、冬に水



森林の会代表 宮下正次さん

涸れがおき、山元では給水車が出る騒ぎになっています。そこで間伐が大切な仕事になります。強度の間伐を行えば広葉樹が飛び込んできます。こうなれば山は肥え、保水力も上がり、おいしい水を下流に流してくれます。間伐した材木は炭に焼き、その炭を林地に戻します。炭は強酸性となった土壤を和らげ保水力をあげて、おいしくて安全な水を下流に流してくれます。

6. 放射性物質は炭と微生物で眠らせる

チェルノブイリの原子炉の中で3種類の微生物が見つかりました「光合成細菌」と言い、放射性物質を食べていたのです。炭は放射性物質をよく吸着させます。「光合成細菌」を浸み込ませた炭を立ち枯れの山に撒けば樹は元気を取り戻し、吸着した放射性物質は安全な原子に転換されます。

7. 林野庁も立ち上がる

林野庁は2012年度予算を一般会計化し、ナラ枯れに炭を活用する予算を付けました。「生命炭」の誕生です。これまで林野庁は1本の樹も助けることが出来ませんでした。それどころか日本中の山に毒を撒き散らしてきました。先輩が決めた誤った法律にしがみついて日本の森を枯らし続けてきました。日本の森を守るのが林野庁の仕事。名実ともなった林野庁にするには、国民の機敏な反応が求められているのです。

《文責：宮下正次／写真：長谷川陽子》

やま
森林の会事務局

Tel&Fax : 027-386-6647
〒370-0023 高崎市中島町 90-10
E-mail : yamanokai@vesta.ocn.ne.jp